



ペンギン島

南緯62度06分 西経57度54分 King George島東部

主な特徴

- 休眠火山錐
- オオフルマカモメ
- ヒゲペンギン
- 植生
- 鯨の骨



概要

- 地形** この島は楕円形で長さ1.6kmである。地形上の顕著な特徴は、標高170mのDeacon Peakの火山円錐丘で、その北側は上陸地区のある海岸へ向かって緩やかな斜面となっている。島の周囲の大部分は低い断崖となっており、北東には火口湖がある。
- 動物相** 繁殖が確認されている種：ヒゲペンギン (*Pygoscelis Antarctica*)、アデリーペンギン (*Pygoscelis adeliae*)、オオフルマカモメ (*Macronectes giganteus*)、ナンキョクアジサシ (*Sterna vittata*)、ミナミオオセグロカモメ (*Larus dominicanus*)、ナンキョクオオトウゾクカモメ (*Catharacta spp.*)。繁殖の可能性のある種：サヤハシチドリ (*Chionis alba*)、アシナガウミツバメ (*Oceanites oceanicus*)。定期的なねぐら：ズグロムナジロヒメウ (*Phalacrocorax atriceps*)、定期的上陸：ミナミゾウアザラシ (*Mirounga leonina*)、ウェッデルアザラシ (*Leptonychotes weddelli*)。
- 植生** ナンキョクヘアグラス、ナンキョクミドリナデシコ、アカサビゴケ、コケ類、ダイダイゴケやその他の固着性地衣類、樹枝状地衣類の *Usnea antarctica* の大きな繁茂地。

訪問者の影響

- 既知の影響** Deacon Peakへの小道による浸食。
- 潜在的影響** 植生の踏みつけ、野生生物（特にオオフルマカモメ）への攪乱。

上陸要件

- 船舶*** 乗客200名以下の船舶。1度に1隻の船舶に限る。1日あたり（午前0時から翌午前0時まで）2隻以内。
- 訪問者** 探検ガイドとリーダーを除き、常に下船は1度に100名以内。訪問者20名あたりガイド1名。所定の宿泊滞在の関係者を例外として、22時から4時（現地時間）の間は上陸できない。これは野生生物の休息時間確保のためである。

訪問者用地区

- 上陸地区** 北岸の広い礫浜。上陸用海岸西側の低い断崖はオオフルマカモメの繁殖地なので（閉鎖地区A）、十分離れて上陸すること。
- 閉鎖地区** 閉鎖地区A：島の北西地域と、オオフルマカモメが繁殖する北部海岸沿いの低い断崖。
閉鎖地区B：オオフルマカモメが営巣する、島の北東端の低い断崖の付近。
閉鎖地区C：「火口湖」の縁とその南側の円丘。植生が密でオオフルマカモメが営巣する。
閉鎖地区D：島の南端にある、ペンギン用モニタリング管理サイト
- ガイド付き徒歩地区** 島北端のヒゲペンギンのコロニー訪問者は、礫浜の海岸線沿いでは厳密な監視下に置かれる。閉鎖地区A、Bの北側の海岸での訪問者のガイドは、静粛にゆっくりと行うよう特に注意が必要で、その上の岩礁のオオフルマカモメの営巣を攪乱しないようにするべきである。Deacon Peakへの訪問者が閉鎖地区B西側へ向かう際は、指定の道を通行するべきである。ヒゲペンギンのコロニーからは「ナンキョクオオトウゾクカモメの円丘」の南側の経路を取ることも可能であるが、この経路の通行は、植生への踏みつけを避けるため、少人数のガイド付きグループに限られる。
- 自由散策地区** なし

*：ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。

ペンギン島

南緯62度06分 西経57度54分 King George島東部



訪問者の行動規範

陸上での行動

ゆっくりと注意深く歩行すること。野生生物からは5m以上の距離を保つようにし、動物に道を譲ること。動物に挙動の変化が見られたら、距離を置くこと。
 営巣中のオオフルマカモメと同じ高さ、あるいはさらに高い位置にいる場合、最低50mの安全距離を取ること。鳥の挙動に変化が見られたら、距離を置くこと。
 ナンキョクオットセイは攻撃的になる場合があるので、近づかないこと。
 植生の上を歩かないこと。

注意事項

南極の気象条件はどこでも急に変わりやすいが、この地域はとりわけ急に変化しやすい。



上空からのペンギン島



Deacon Peakへの経路は特にシーズン終盤において眺めが良い。



上陸地区。オオフルマカモメの営巣地区から距離をおくこと。

